# 旧佐川邸の公園化を考える会 議事録

令和3年3月7日13時00分～15時00分＠上水南公民館

出席者：18名（敬称略）

ランドスケープデザイナー　S、S

小平市議：橋本、水口、安竹（氏名順）

記・安竹

当日配布資料：アンケート調査結果（速報版）、請願書

頂いた資料：ご講演の資料PDF

3月の小平市議会定例会へ提出した請願の内容と、議会での今後の段取りについて報告しました。また、市長との意見交換会の様子についての報告がありました。また、町内会へのアンケートについて、S氏とS氏がまとめの速報版を作成してくださいました。その内容と、今後の方向性について話し合いました。

## **請願について**

・　公明党以外が賛成しているため、賛成多数で可決されます

* 公明党が事前に賛成してくれれば、全会一致で初日に即決でした。しかし、公明党が事前に賛成しなかったことから、委員会付託になります。そうすると、請願事項の1, 2番は総務委員会で審議され、3番（『平櫛田中氏や齋藤素巖氏と同様に、佐川幸義氏も、市の歴史的な人物の一人としてスポットを当てることを検討してください』）だけが、生活文教委員会で審議されることになります。しかし、この３番は単独で審議されるような内容ではなく、否決される可能性があったため、残念ではありますが、3番は削除して提出することにしました。請願には含められませんでしたが、趣旨説明の際や質疑の際に触れる予定です
* なお、公明党も最後には賛成にまわる可能性があります
* 請願を審議する総務委員会は、９日火曜日の朝9時から開始予定です
* 総務委員会へ提出する参考資料は、次のものを予定しています：
  + 公園課の積算内訳
  + 公園課との会議録
  + アンケート調査結果まとめ（S氏、S氏作成の資料を使わせていただく）
  + 市が当初提示した公園のプラン
  + 会員が考えたプラン
* 井戸については、安竹が趣旨説明を行う際に触れます。また、総務委員の橋本久雄氏が、質疑の際、事務局にも確認する予定です
* 市長との意見交換会の内容についても触れる予定です

## **市長との意見交換会について**

**[小林洋子氏]** かつて小平市の環境整備委員会が、市内のすべての公園を調査したことがありました。小林洋子氏は、その際に委員のひとりであったため、その点をアピールされていました。環境整備委員会がまとめた内容に対し、その後、市は動いていないので、どうかと考えているとのことでした。

**[磯山りょう氏]** 現実としてお金がかかるので、具体的な方法を考えましょうという考えでした。土地はすでにあるので、費用のことはバランスよく考えればよく、佐川関係者だけで資金が集まるなら、当然前向きに進むといった意見でした。現地も確認し、佐川氏の歴史にも興味を持たれており、氏の人物像を大切に歴史に残すことにも共感している様子でした。

お二方とも、公園整備、ふるさと納税の活用、井戸の設置には前向きな印象でした。

* 選挙に向けてのことなので、候補者はたくさんのことを「やる」といってアピールする。実際、当選したあとに、約束を守っているかの確認が必要になってくる
* 請願を出すことで、マニフェストとして優先順位が上がることになるので、この機会に請願を出すことは意味がある

## **アンケート集計結果と今後について**

（添付資料をご参照ください）

* 小平市の方は回収に出向いたため、回収率が高い。国分寺市の方は配ってもらい、回答した方から町内会長に持ってきてもらった。積極的に集めることはしていなかったため、回収率は低め。しかしそれでも２割戻ってきており、関心の高さがうかがえる
* 水のある池が不要というところは、蚊や虫がわく、というところ。市の中では維持管理が難しい施設になるかもしれない。池の部分は、ビオトープで生物の環境を整備し、生き物と触れあえる場所にしてはどうかという意見もあった
* あったらいいなと思われる設備には、防犯カメラが顕著に高い。それ以外は、季節の草花、日陰。避難場所、防災施設。
* 佐川先生の認知度については、前から住まれている方は知っていても、新しく来られた若い世代の方はよく知らない方が多いのだろう
* 作ったから終わりではない、その後を会としてどう考えているのか、という意見も
* 棒グラフは大きい順に並べると分かりやすいかも
* 会に出ていない方の意見が集まった。なかには反対意見もあった。それはどうするのかなと思うところがあるが、個人的には会として重要視しなくてもよいのではないかと
* 公園などの施設は必ず反対意見が出る。100％賛成というところはないので、反対意見の人たちにも配慮しながらプランを考えるという方向性
* 細い通路については、通行したいからあけておいてほしいという方と、緊急時以外は締めておいてほしいという両方の意見などある
* 防犯として、フェンスなど物理的に制限をかけるやり方もある。公園全体として人の目の監視が行き届くような、「使われている」公園になると防犯上の意味がある。使われておらず、見通しがよくない状況だと、治安上の問題が出るケースもある
* 防犯カメラの管理はだれがやるか　→　基本は市が管理するはず。要確認
* 道場があったときは防犯カメラがついていた。旧佐川邸にゴミを投げる家があり、それを防ぐ目的だった
* 市内で、学校の付近や商店街で防犯カメラをつけているところはあるが、公園につけている場所はない。一般質問で「公園にカメラをつけてほしい」という話になった際、市は「つける場所がない」「付近で目を光らせて居ればよい」という趣旨の主張だった
* 公園に監視カメラをつけている例は、他の自治体ではけっこうある。抑止効果を狙っている。つけっぱなしにして、月一回程度、動いているかどうかを確認するなど
* 防犯カメラはいつでもつけられるので、あとで考えてもいいのではないか
* 防災という意味では、せまい通路も通れないとダメなのでは。市内には、閉鎖する公園もあるが、公園の意味がなくなるのでは。閉鎖するというのは防災上も問題がある
* 街灯については、すでに既存のもので十分明るいので、新設は特に必要がないと思う
* アンケートの結果がまとまったら、調査対象の皆様に報告する。アンケート結果をふまえて、方向性を定めていく。パブリックワークショップのような形につなげられれば。「周辺の方々の関心が高いところ」で、うまくのってもらえるような形で進められれば
* 住民の方々へのアンケート結果報告用のチラシは、「賛成意見・反対意見」のようなスタイルで整理したい。請願が通ったという内容も記す
* 今後のスケジュールをまた考え、今年度中にはなにかをしておく、といった形で動いておければ。請願が通り、市長が決まったあと、市の担当者も交えて会合し、ワークショップに向けて動くなど
* 市のワークショップも、面積が決まらないと、という前提だったのでは → 請願が出ているので、売らない方向性でワークショップをやってもらう
* 請願が通ったあと、市長が決まったあたりで、ふるさと納税を数年に渡ってキープしておける仕組みを構築する場合、どういう課題があるのかを確認する方法がよいと思う。再来年度（令和4年4月～）から設計に入ってもらうためには、どういうスケジュールで進めればよいかということもその会合で確認していけたらよい
* 市がワークショップをやってもいいという話になることは珍しい。これは、議員が7人くらい参加していることも大きいと思う
* 具体的な配備や位置などは、今後の計画にしておく。大きなイメージとして、池はなしにするなどのところは決めておきたい
* 最初に土地とお金を寄附いただいたときに、佐川先生やご子息が、どういうことをイメージされていたのか、その原点のところが重要。近所の方が散策して憩えるような場所をイメージされていたのではないか。アンケート結果も重要だが、その原点の思いを大切にしてほしいと思う。アンケートでは両方の意見がある。気楽に書いた人もいる。遊具があったらいいと思っていた人も、公園ができて、道ができて、散歩できるようになると、花をみたり、石を見つけたり、遊具以上の体験ができると気づくこともあるだろう。私の子供たちが小さいころ、子どもと一緒にたまたま迷い込んだ。道場を抜け、夢のような緑の中をくぐって、どこに出るか、まさかここに出るとは、という体験があった。遊具があった方がよいと思っていた人も、考え方が変わってくると思う。いろいろ進んでいている方向性をみて、安心している。ワークショップをすることはいいと思うが、もともとの思いのところは、ずれないでほしいと思う。
* それこそがコンセプトづくりのところ。佐川先生のことも知らない人たちがいる中で、寄附していただいた経緯や、思いを共有する中でのコンセプト。
* 佐川先生のご子息のご意見として、公園については、子どもが楽しそうに遊んでいるのがいいということがあった。道場があったことを知ってもらいたいというところもある
* 佐川氏も、ご子息のご意見も、地域の人たちに使ってもらいたいという思い。解放して地域の人たちが自由に出入りしたり、花をつんだり、そういうことを望んでいたようだ
* 私は、武蔵野市のプレイパークで勤務していた。プレイパークは、小平市は市の主導で作っているところはないが、武蔵野市は市の主導で作っている。これからの子どもや地域社会にとっては、遊具が用意されて「こういう使い方をしてください」という公園があるより、地域の人たちがどのように公園にかかわっていけるか、住民の人たちが主体的にかかわれるような空間があるということが理想的だと実感している。たとえば、何もなくとも、花をつんだり、野菜を育てたりできることこそが素晴らしいと思う。防災のための井戸をつくることも必要なこと。プレイパークに数年間勤務した経験から実感するのは、地域の人たちが、子どもがもっと自由に遊べる場所を提供しようという運動の重要性
* ある程度まで進んだら、知り合いの記者を通じて新聞の取材をしてもらうことも
* 道場関係者から、昔の建物のおもかげをしのぶような、写真などあればよい
* 灯篭は安全上の問題もあるので、しっかりした対応が必要。専門家からは倒れることはないという意見もあった。子どもの遊び場として、触ったくらいでは倒れないと思うが、心配する声もある。小平市の当初案としては、立ち入り禁止区域にする予定だったはず。柵をつくる予定だった。杭を打ってロープをはる公園もある。
* 井戸はどのようなイメージか → 昔のような大きな穴は掘らない。せいぜい直径10センチくらい。手押しポンプは、子供が手を挟むことはないが、挟まないようにするカバーもある。国分寺には21か所。子どもが普段触っても危なくないようになっている。
* 立ち入り禁止などの禁止事項を増やしていくと、遊ぶ子どもたちにも大人たちにもデメリット。禁止事項を減らして自由に使えるような、チャプチャプ池などの設備を作って自由に遊べるようにする方法もある。水が井戸から来るようにするなど
* 道場の目の前のマンションに井戸があるので、それを見ていただければ参考になる
* 公園用地が、現状のまま残されており、方向性も含めて早く進めてほしいという意見もあった。一歩でも前に進めるような形になるとよい
* これまで池を残したいという要望はあったか → 道場があったときも水をはっていなかった。池とビオトープは別の話だと思っている。池は、井戸を設置することと関連しての話だった。当初は、池の近くに畑をつくりたいという話もあったが
* アンケートに記載した公園計画案を手直ししてプランが作れればと思っている
* 佐川先生の言葉に「人は考えることができる唯一の」ということがあり、それは、子どもたちが遊びを考えだすところにつながる。コンセプトも整備しすぎないというところ
* 公園整備後については、公園を考える会が、「公園を守る会」のように、今後の維持を考える会になっていく、そういったことも事前に準備しておくことが理想的

## **宿題**

* 9日の総務委員会に参考資料として提出するため、S氏よりアンケート結果（速報版）まとめ資料をいただく（8日16時頃までに議会事務局へ提出）

・　S氏に、アンケート結果をまとめていただき、公園のプランを作成していただく

* 小平市長選挙（4月4日）終了後に市の担当課との面談を設定する

## **次回**

4月25日13:00～15:00（全体）

* 請願の審議・採決の報告
* 市の担当課との面談報告
* アンケート集計結果の詳細報告
* 公園のプラン検討
* 近隣住民への報告の検討、等について